

※文字の大きさはMSゴシック / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。

※いずれの場合も、必ずA 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5 MB 以下としてください。

エントリー名：広島県立大崎海星高等学校

活動名：「OOWEEK」と題したカリマネ ～ 教科を繋ぐ、大人の探究 ～

解決すべき課題：本校は離島に位置する1学年1学級の小規模校であり、生徒不足による統廃合の危機から2014年より高校魅力化事業に取り組んでいる。その1つに、地域をフィールドにした「総合的な探究の時間(以下、大崎上島学)」のカリキュラム開発があり、地域住民と共に創る大崎上島学が本校の一つの魅力となり、今では本校への入学を希望する生徒が全国から集まるようになった。一方で、現行の学習指導要領でも重要視されている「**複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究する**」ことについては不十分である。それは、魅力化評価システム【三菱UFJリサーチ&コンサルティング】における生徒の資質の1つ「**探究性**」が低いことから見て取れ、この資質を向上させることが次に達成すべき課題である。

目標：魅力化評価システム内の、**生徒の資質「探究性」に属する以下の項目の上昇**を目指す

項目	R06 1 学期	全国との差
76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	54.90%	-8.9pt
80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	39.60%	-12.8pt
46.勉強したものを実際に応用してみる	56.00%	-11.3pt

方針：「OOWEEK」と題した**全教育活動を巻き込んだカリマネ的取組を行う一週間**と、取組を加速させるための**「大人の勉強会」**を、年間を通して定期的に実施する。

活動内容：OOWEEKの概要は次の通り。

- ・「①：なぜなぜWEEK」「②：説明するWEEK」「③：キャリアWEEK」と題した**全教育活動で取組可能な共通活動を設定**。(図1)
- ・生徒はその活動を**ポートフォリオに蓄積**。その際「評価」の欄を設け、**取組が目標達成により繋がりがやすいものになるよう促す**。(図2)
- ・①～③のWEEKの成果を発揮する場として、**ディベートを行う**。

令和5年度には、②を3度実施し、ディベートを行った。令和6年度は、10月末現在までに①を実施しており、11月～12月に②、③、ディベートを実施予定。

大人の勉強会は、「日々の授業」を教科の枠を超えて協働的に探究する機会として定期的に開催している。**探究性・協働性・実用性を重視した設計とすることで、毎回高い満足度**を得ており、参加任意にも関わらず管理職を含め**ほぼすべての教員が参加**している。WEEKにおいては、カリマネ担当者が実践前後に開催することで、PDCAサイクルにおけるCの機会とするとともに、WEEKを日々の授業に反映させる具体的な案を考える場として機能している。

① なぜなぜWEEK		② 説明するWEEK		③ キャリアWEEK	
レベル	状態	レベル	状態	レベル	状態
5 探究	探究のテーマとなろうる「なぜ」	5 応用	別の事例にも応用するレベルで理解してもらえた。相手「ってことはOOもOOってこと!？」	5 意義	学びを一般化・抽象化することで、それを学ぶ意義を見出している。
4 未知	その答えを知るために、新しい学びを必要とする「なぜ」	4 要約	説明した内容を要約するレベルで理解してもらえた。相手「要するにOOってことよね」	4 人生	授業の枠を超えた「人生」に応用できるヒントに昇華できている。
3 活用	既習事項を活用することで、答えを導き出せそうな「なぜ」	3 正確	説明した内容を正確に理解してもらえた。相手「よくわかった」	3 枠外	教科の枠を超えて生きる内容。
2 既習	答えが既習事項である「なぜ」	2 概ね	説明した内容を概ね(ニュアンスを)理解してもらえた。相手「なんとなくわかった」	2 枠内	その教科の中で生きる内容。
1 常識	誰もが答えを知っている「なぜ」(常識)	1 ダメ	説明した内容を理解してもらえなかった。相手「全然わからん」	1 既知	気づいていないだけで、実はすでに知っている。

図2：各WEEKにおける評価基準（ポートフォリオ記入時に生徒に相互評価させ、より良いアウトプットを促す。）

図1：OOWEEK 実施要項より

取組の過程：教員有志の私的な探究テーマとして、令和3年度より教科横断型学習に注力しており、今年度の形になるまでの過程を時系列に沿って記述する。(図3)

令和3～4年度は、大崎上島学および各教科における**コンテンツベースでの学びの接続を中心に挑戦**した。**外部講師や高校生を交えた勉強会**(図4)を重ねる中で、「コンテンツを中心におきつつも、特定のコンピテンシーを磨く複数教科アプローチ」や、「**生徒自身の学びのアンテナの構築**」の可能性を見出すことができた。また、**大崎上島学と各教科の学びの往還**が見えはじめ、後に「大崎上島学の中で教科スポット授業」や「STEAM教材の開発」に繋がった。

しかし一方で、既存のカリキュラムを壊す可能性や持続性の低さが課題として挙げられていたため、令和5年度より、**育てたい資質能力にも着眼した「持続的かつ全教育活動での取組」**を模索した。そして、勉強会を重ねた結果、「**②：説明するWEEK**」の構想に至った(図5)。本取組は「**生徒の探究性を伸ばすには?**」を問いとした**大人の「探究活動」そのものであり**(図6)、**実践の間に勉強会を設定し、全員でPDCAサイクルを回している**。それにより、WEEK実施時には教職員全員が自分事化できていたり、ディベート前には各教科の視点から事前準備への助言があったりと、「**コンテンツ・コンピテンシーどちらも重視しつつ、気軽に取り組めるカリマネ的取組ツール**」へと昇華することができた。

令和6年度は、WEEKに段階を持たせようという意見から、「**①なぜなぜ**」と「**③キャリア**」を追加した。また、現在は、WEEK・勉強会共に学校のカリキュラム・マネジメント事業と統合しており、**有志から始まったこの取組は、組織的で持続的な取組となった。**

活動の成果：成果1：令和6年度「①なぜなぜWEEK」実施後のアンケートにおいて、生徒から、「**当たり前のことに疑問を持つ力がついた**」、「**問いをたてて解決しようとする力がついた**」、「**なぜを深く探究することで新たな発見に繋がった**」等の言葉があった。

成果2：令和4年度入学生に、令和5年度の取組の前後で魅力化評価システムを実施したところ、特に項目76「公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした」の値が**42.1% → 65.0%**と**22.9pt 上昇**し、**WEEKの効果を確認**できた。

成果3：**教員間の授業に関する会話が増加**し、**横断的な授業が自然発生**するようになった。(図7)

- ・英語×地歴×家庭科「イングリッシュクッキング」
- ・総探内で各教科の視点を活用する授業「汁ー1グランプリ」

成果4：「大崎上島学での教科スポット授業(数学)」が生徒の探究の質をあげる一助となり、広島県教育委員会の「地域と高校の新しい連携・協働の在り方研修会」において、本校がモデルとして招待され、県内で唯一**生徒自身が学びの事例発表**を行った。図7：職員室での授業作りの様子

年度	教科横断的な取組	関わった教育活動	勉強会
R03	・島の農業×SDGs×教科	・大崎上島学 ・教科(4つ)	3回
R04	・島の魚(チヌ)×教科 ・教科横断LHR	・大崎上島学 ・教科(5つ) ・LHR	6回
R05	・大崎上島学の中で教科スポット授業 ・説明するWEEK	すべての教育活動	5回
R06	・STEAM教材の開発 ・OOWEEK	すべての教育活動	2回～

図3：これまでの教科横断的な取組



図4：生徒も交えた勉強会



図5：説明するWEEKの様子



図6：勉強会にて探究する大人の姿



図7：職員室での授業作りの様子